

平成 2 6 年度 赤穂市学校評価報告書

学校園名 赤穂市立尾崎小学校

1 本年度の学校経営方針

人口減少社会やグローバル化の進展等，社会の急激な変化への対応や小1プロブレム・中1ギャップ等に起因する「いじめ」「不登校」「問題行動」等の様々な教育課題が山積する中，教育活動全体で児童に「生きる力」を育み，心豊かな児童を育成することは，これまで以上に重要である。

そのため，「学校」，「家庭」，「地域社会」が，それぞれの役割を自覚しつつ，学びの共同体として，取り組みを進めなければならない。また，地域社会から学校への要請を自覚しながら「学校教育と社会教育の融合」を進めていかなければならない。

その中で，学校の役割は極めて大であり，学校としての情報発信をすると同時に，保護者や地域に学校を開くことが必要である。そのため，学校が『見える化』『聞こえる化』に継続して取り組み，さらに一歩進めて「見せる化」を意識しながら，子どもの姿，教職員の姿，学校の姿を保護者や地域に明らかにすることこそが，保護者や地域社会の「信頼」を得ることにつながる。

子どもたちの学びを支えていく上で，学校は，子どもにとって安心して学べる場でなければならない。そのため，「いじめ」は人権侵害であり，決して許される行為ではないことを念頭におきながら，「いじめ」を許さない風土を育み，安全で安心できる「信頼」される学校づくりに努める。

さらに，赤穂市の第三者委員会の提言を踏まえながら具体的な行動計画を基軸に取組を進める。

以上のことから，学校教育目標を「豊かにつながり合い 自信と誇りをもち 自立的に生きる子の育成」と設定した。全教職員の共通理解を図り，子どもたちが自信とほこりを持ち，安全で安心できる信頼される学校をめざしていく。

総合的な学校園関係者評価

・最近の傾向として，自尊感情の低さを強調しているように思われるが，日本人の本来もっている奥ゆかしさはある意味国民性ともいえるように思われる。その上で，今後は，自己主張の大切さや海外との交流の重要性が問われている。そのことをふまえて指導をお願いしたい。

・交通事情が大きく変わり，自らの命を守るためにも交通安全面の指導の重要性を感じる。低学年から自転車の利用も多く，具体的にヘルメットを必ずかぶる等の指導を期待している。さらに，登校時の子どもたちの様子から，横断歩道を素早く渡たる等の日常的な行動の改善を望む。

・赤穂市でもいじめの取り組みが進められているが，現状把握のためにも「いじめアンケート」の利用を進め，保護者等に学校での取り組みと一体になって関わりを深めてもらいたい。

・「あいさつの声が響く街」「思いやりの心があふれる街」のスローガンの下，7校園所で取り組んでいることを地域でもさらに進めていきたい。家庭の中で，大人自らがあいさつを行う習慣を作り，P T A全体に呼びかける必要がある。継続的な取り組みが大切である。

・教職員の適正な勤務が行えるように，常に気を付けて声かけをお願いしたい。職員の健康が第一であり，元気な姿で子どもたちに関わっていただき健全な育成を望む。

2 本年度の学校(園)重点目標

- 1 確かな学力の定着と向上をめざす。(授業の改善と充実)
- 2 自尊感情を育み，望ましい人間関係を築く。(人権教育の充実)
- 3 教育専門職としての資質を高める。(研究・研修の充実)
- 4 効率的な学校運営をめざす。(勤務時間の適正化)
- 5 たくましい地域人を醸成する。(家庭・地域との連携)

学校園関係者評価

3 自己評価結果 (A～D) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

観 点 (重点目標)	評 価 項 目 (学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	評 価 指 標 および 目 標 値 (期待される姿)				
授業の 改善と 充実	項目	基礎基本を明確にして授業を進めている。	保護者・児童アンケート	A	・ 幼小・小中，学年の系統的な接続を考えた教材研究・行事計画を含めたカリキュラムを精選する。 ・ 課題を持って取り組む家庭学習，問題解決型の授業を構築する。 ・ 評価規準に準拠した，形成的な評価活動を行う。 ・ 学習規律を徹底する。 ・ 「ほめて伸ばす」指導を意識し，ほめる機会を多くもつ。 ・ 課題教育や学校行事と関連を図った教科・道徳・総合的な学習の時間のカリキュラムに改善する。 ・ わかるまで徹底的に指導する。 ・ 朝読書の実施や授業における図書室の活用を促進する。
	指標	授業はわかりやすく，楽しい。	保護者・児童アンケート		
	項目	指導方法の工夫改善に努める。	保護者・児童アンケート		
	指標	授業がよくわかる。	自己評価		
	項目	個に応じた指導を意識し，推進する。	児童アンケート		
	指標	一人一人に合った指導をしているか。	自己評価		
	項目	指導と評価の一体化に努める。	児童アンケート		
	指標	明確な目標，多様な評価を行う。	自己評価		
	項目	授業時数の確保に努める。	児童アンケート		
	指標	カリキュラムに準拠して指導する。	自己評価		
	項目	実態に応じて工夫し，特色ある教育活動に努める。	児童アンケート		
	指標	尾崎ならではの教育活動の展開。	自己評価		
	項目	体験的，問題解決的な学習に取り組む。	児童アンケート		
	指標	目的を明確にして効果的な活動を仕組む。	自己評価		

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	○	・「わかる」や「できる」授業の充実を図り，教材研究や指導方法の工夫に努める。 ・尾崎小学校として人権教育を基に特色ある授業を展開することが必要である。 ・学校行事の精選と課題教育については，系統性や内容について再検討していく。 ・モジュール学習を中心として，ドリル，プリントでの基礎の反復学習により，一人一人に実りのある学びを習得させる。 ・児童同士の質の高い学びを作り，授業の進度や宿題等の課題の量に差が出ないようにする。

観 点	評 価 項 目（学校園・教師の取組）		評価資料	達成状況	改善の方策		
	評 価 指 標（児童・生徒・園児の状態・行動）						
人権教育の充実	項目	全領域の中で推進する。	自己評価	A	・児童の実態に即した適切・的確な教材を開発する。 ・道徳の時間を中心にした授業づくりを推進する。 ・児童理解を深めるため、学級の気になる子どもについて月1回連絡会を持ち、指導にあたる。 ・生活アンケートを継続して行い、児童の課題やいじめの早期発見に努める。 ・特別支援教育について分かりやすい説明・機会に応じた啓発を行う。		
	指標	計画的に実施する。	児童アンケート				
	項目	生きる力を育むよう積極的に取り組む。	自己評価				
	指標	常に目をかけ、声をかける。	児童アンケート				
	項目	いじめや不登校問題を解決しようと努める。	自己評価 保護者				
	指標	日常の観察、研修の充実、感性を磨く	・児童アンケート				
	項目	困り感に寄り添う指導に努める。	自己・保護者・				
	指標	特別な支援を要する児童に適切に関わる。	児童アンケート				
研究・研修の充実	項目	自分で課題意識を持って研修に取り組む。	自己評価	A	・自由に相互参観できる機会をつくり、O J Tを進める。 ・専門性を高めるため、高い意識をもって研修に努める。 ・職員の勉強会を開き、忠臣蔵検定に全教職員が合格する。 ・新聞等を活用し教育や子どもを取り巻く時事問題に関心を持つ。 ・マラソン等、子どもとともに体力づくりに努める。		
	指標	課題を明確にして、研究していることがある。	自己評価				
	項目	豊かな人間性の形成に努める。	自己評価				
	指標	休日には様々な活動に参加している。	自己評価				
	項目	日常的に体力向上に努める。	自己評価				
	指標	健康づくりに配慮している。	自己評価 忠臣蔵検定				
	項目	忠臣蔵について研修する。	自己評価				
	指標	赤穂義士について語れる。	自己評価				
勤務時間の適正化	項目	ノー残業デー、ノー会議デーの実施に努める。	自己評価	B	・ノー残業デー、ノー会議デーの完全実施に努める。 ・校務データをより使いやすく整理する ・校務の能率化に努め、廃止、精選を進め、授業や子どもとともにいる時間を確保する。 ・積極的にまわりの人と関わり、教職員も協働的な関係をさらに深める。		
	指標	毎週木曜日に早く帰る。	自己評価				
	項目	効率的に仕事を進める。	自己評価				
	指標	時間を意識した仕事をする。	自己評価				
	項目	子どもと向き合う時間の確保に努める。	自己評価				
	指標	子どもとともに過ごす時間が多い。	児童アンケート				
	項目	校務のデータの共有化を図る。	自己評価				
	指標	学校のデータとして一元管理する。	自己評価				
家庭・地域との連携	項目	協働し、明るい職場環境づくりに努める。	自己評価 保護者アンケート	B	・地域の人から「尾崎小学校の先生」と認識されるよう、積極的にあいさつをする。 ・学校行事の中で地域の人が参加できる機会を増やす。 ・家庭への連絡や訪問を丁寧に行い、教育実践の「見える化」を図る。 ・地域行事に地域の一員として積極的に参加する。		
	指標	自分を表現する。互いに笑顔で働く。	保護者アンケート				
	項目	学校での様子を伝えるよう努める。	保護者アンケート				
	指標	家庭への連絡を正確に適切にする。	保護者アンケート				
	項目	学年便りや家庭連絡等、相互理解を図る。	保護者アンケート				
	指標	定期的に発行する。保護者の願いを知る。	自己評価				
	項目	尾崎が大好きになる仕掛けをする。	自己評価				
	指標	授業の中に郷土の学習を仕組む。	自己評価 外部評価				
	項目	電話、来訪者に丁寧な接遇をする。	自己評価				
	指標	明るく、さわやかな接遇をする。	評価				
	項目	保護者ととともに熱意ある指導に努める。	自己評価 外部				
	指標	P T A行事や地域行事に積極的に参加する。	評価				

自己評価における特記事項
・学年での日常会話から、各学級の些細な出来事も交流し、児童や保護者にどう対応したらよいのか相談する等して学年での協力体制ができています。
・スクールカウンセラーやSSW等関係機関との連携を深め、児童理解を進め適切な対応を取ることができました。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	・コミュニケーションの第一歩をあいさつととらえ、あいさつ運動を継続して取り組む。 ・お互いの良さを認め合う場を設定し、児童会で取り組んできた「笑みがあふれる尾崎小」の運動をさらに進め、豊かな人間関係づくりを進めていく。 ・自然学校や運動会などの行事を中心にして、達成感を与え、日常的にほめることにより、自信を持たせる。 ・特別な支援を要する児童やその対応についての学校からの説明については、保護者の理解が十分に得られる努力が必要である。 ・アンケートや日頃の会話等から、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。
◎	◎	・社会人としての自覚を持ち、地域を愛し、仲間意識を大切にする一人一人に成長していくように努める。 ・苦手なことにも挑戦し、さらなる努力をし、地域に貢献できるようになってほしい。 ・地域の活動にもできるだけ参加し、豊かな人間形成に努める。
○	○	・年間を見通して、仕事の進め方を意識し、効率的な時間の使い方を考え上で、子ども達と向き合う時間を大切にする。 ・様々な年代の人のアドバイスを参考にし、子どもにとって望ましい関わりを探る必要がある。
◎	○	・学校便りの工夫により、学校の教育活動や児童の様子を積極的に伝える。 ・学校HPを定期的に更新し、積極的に知らせる。 ・オープンスクール等に多くの保護者が集まるような手法は何か考えること。 ・教育・スポーツなどの専門職との連携を密にして地域に発信されたい。 ・地域行事に積極的に参加し、お互いの連携を図り、心の交流に努める。 ・学校・家庭・地域が常に情報交換できる場を設ける。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法
・耐震工事・大規模改造工事により校舎がとてもきれいになった。そこで、環境美化のためにも美しい学校を維持しようとする気持ちを大切に、日々の清掃指導にも力を入れていく必要がある。 ・学習面や行動・生活面で気になる児童への適切な指導のために、今後も関係機関と連携を深め、保護者の理解を進めていく必要がある。